

## 法と心理学者による実務家研修のご案内

犯罪心理学会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、法と心理学の研究成果を司法現場の方々には知っていただくために、日本心理学会会員を中心とする「法・矯正領域における心理実務家研修プログラム」研究会で、以下のような研修を企画いたしました。

犯罪心理学会会員の皆様方、裁判官、検察官、警察官、弁護士等の司法の実務に携わっておられる皆様方のご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、参加費は無料です。

「法・矯正領域における心理実務家研修プログラム」

世話人 北海道大学大学院文学研究科 仲真紀子

.....

### 法と心理学者による実務家研修

本研修は、日本心理学会による助成、および、以下の団体による後援を受けております。

日本心理学会 日本認知心理学会 日本犯罪心理学会 法と心理学会 日本学術会議（法と心理学分科会） 北海道大学文学研究科 JST プロジェクト「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」

#### 【研修 1】

5月 28-29 日に学習院大学で行われる認知心理学会大会に連結するかたちで開催します。

日時：5月 27 日（金）午後 3 時～5 時

場所：学習院大学文学部 10 階会議室

対象：裁判官、検察官、警察官、弁護士、司法心理学者、司法実務家

講師：日本大学文理学部心理学研究室 巖島行雄教授

題目：目撃供述はなぜ誤るのか：その原因と目撃供述の評価法

目撃供述が重要な証拠になる事件は決して少ないわけではない。しかも、事件によっては決定的な証拠となって被告人が裁かれる。しかしながら、過去、この証拠のために、多くの冤罪が起こっている。米国では、イノセンスプロジェクトの創設によって、DNA 分析を用いた検証で多くの冤罪が報告されている（1980 年後半から始まったこのプロジェクトでは、すでに 266 名が無実を証明され、出獄してきている）。驚くべきは、報告された冤罪の 75% の誤判原因が、誤った目撃供述であったということである。では、なぜこれほどまでに目撃供述は誤るのか。このセミナーでは、目撃供述が誤る心理学的原因について解説すると共に、目撃供述の信用性を評価する方法について、話題提供者である巖島の鑑定事例を使用して報告する。

■イノセンス・プロジェクトのホームページは <http://www.innocenceproject.org/>

#### 【研修 2】

9月 15-17 日に日本大学で行われる日本心理学会大会に連結するかたちで開催します。

講師：R. ブル教授（英国レスター大学）

日時：9月 18 日（日）午後 3 時～5 時

場所：日本大学文理学部

対象：裁判官、検察官、警察官、弁護士、司法心理学者、司法実務家

題目：被疑者へのビデオ録画面接の効果：面接技術の向上のためにも

1970-1980 年にかけて、英国のメディア・警察・政府は、警察官による被疑者面接において被疑者が偽りの情報を提供したり、何も情報を提供しなかったりすることが多いことを見いだした。犯罪を行っているのに虚偽の報告をして「逃げて」しまう者や、数は多くはないが、虚偽自白をする者もいた。このような実態に鑑み、1986 年、すべての被疑者への面接を録音することが法制度化された。1980 年代後半、録音された面接を対象とした研究が、上級警察官によって（学位論文のための研究として）、あるいは政府の命を受けて行われた（ミルン・ブル、2003 を参照のこと）。これらの研究により、(1) 強固な意志をもつ被疑者の前であきらめてしまう、(2) 多くの暗示的／誘導的質問をして、法廷で弁護人や裁判官から批判されるなど、警察官の面接は必ずしも良いとは言えないことが判明した（実際、警察官はほとんど訓練を受けていないことが多かった）。このようなことから、警察官も含まれる委員会が作られ、国によるガイドラインとトレーニングマニュアルが作成された。この研修ではこういった過程を概観し、被疑者の面接をさらに向上させるための最近の研究（嘘の発見も含む）について述べる。

■R. ミルン・R. ブル（著）原聡（編訳）（2003）. 取調べの心理学：事実聴取のための捜査面接法. 北大路書房